

# ■造形表現科

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【デッサン応用Ⅰ 2単位】 共通Ⅱ-1石膏デッサン 【404教室】	実習	清水健太郎 菊地達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	石膏像をよく観察し、デッサンする事で人体(主に上半身)の基本構造を学ぶ。 的確な構図・正確な形・効果的な明暗の描写力を習得する。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:4/11~4/14 午前 計4コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石膏デッサンは首像、胸像、半身像、全身像というように難易度が増します。この授業では、石膏像をモチーフとしたデッサンを2枚制作します。</li> </ul> <p>ギリシャ、ローマ時代の彫刻を模した石膏像をモチーフに使うのは、西洋画のアカデミックなデッサン教育の柱になっています。 この時代の彫刻は理想的なプロモーションやバランスの取れた量感を表現の核としているため、描くこと自体で美しいものに触れることとなります。また、白無地であることでデッサンの基本となる「形」や「明暗」を描くトレーニングになります。</p> <p>また、様々な石膏像を繰り返し描くことでデッサンの手順や方法を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>首像を顔として認識せずにモチーフとして正確に対象を把握する。</li> <li>安定した構図で画面を収めることに留意する。</li> <li>明暗をよく観察し、階調変化を表現する。</li> </ul>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容	
1	4/11 前提講義	4/14 講評会

成績評価の方法
・課題の提出    ・制作作品    ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 ・デッサン用具一式 ・木炭紙5枚以上(下敷き分も含む) ※日本画コースは鉛筆デッサンでも可、その場合はTMKポスター紙を木炭紙大に切って使用 ※木炭紙、TMKポスター紙は事務室で購入できます	学校で準備する教材など ・画板 (鉛筆デッサン用・木炭紙大程度)
---	--

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【デッサン応用Ⅰ 2単位】 共通Ⅱ-2人体デッサンⅠ解剖学概論 【404教室】	実習	大家泰仁 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	<p>人体の基本的な構造(骨格および筋肉)についての理解を深める。                  人体の各部(内側・外側)を造形要素として捉えて描写表現する。</p>
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:4/18~4/28 AM 計8コマ                  通常人体は外見を観察して描きます。ただ身体の外見は、骨格や筋肉等の内部の構造と表裏一体にあります。                  この課題では、まず模造紙大の大きな画面に人体を描き、その描いた像の上から骨格を描きます。身体の外側と内側の両方からの作画を通じて、人体の形の理解を深めます。</p> <p>※対象物(モチーフ)・・・ヌードモデル。主に連続の固定ポーズを設定します。                  ※骨格を描く際は、骨格見本(模型)や解剖図(資料)を参考にします。授業で参考にする資料は学校で用意しますが、各自で参考にできる資料があれば持参してください。                  ※授業のはじめはクロッキーを行います。</p> <p>美術表現科で以前この授業に参加した人は、人体の内部構造を骨格に限定することなく、主に筋肉を中心に、内臓や神経等、様々に視点を広げましょう。                  そして外見の形や内部構造を造形要素として捉え、自由に構成へと展開させましょう。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
2	4/18 前提講義(スライド)、制作
3	4/28 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物 クロッキー用具 鉛筆デッサン用意 上質紙(事務室にて販売あり。事前に購入をしてください。)	学校で準備する教材など ・モデル ・上質紙(四六判) ・画板(大) ・人体骨格見本・解剖図 ・関節の模型(部分) ・プロジェクタとスクリーン ・棒
--	--

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【デッサン応用Ⅱ 3単位】 共通Ⅱ-4人体デッサンⅡ 【404教室】	実習	中嶋明 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	「人体(全身)」の基本的なプロポーションを理解し、構造的に表現する。 画面全体に対して効果的な構図を探り、1枚の絵として完成させる。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:5/16~5/19 AM 4コマ</p> <p>この授業では、主に座っているポーズを描きます。 モデルをよく観察して全身のプロポーションや機能的な美しさを発見しましょう。 肌の質感、光と影、などに注意して制作します。 授業の中ではクロッキーも行います。クロッキーは5分や10分など短い時間で対象物を描くことで、全体の構造や動きをとらえる訓練になります。</p> <p>【モデル授業の注意事項(学校より)】 ポーズの始まりと終わりには挨拶をしましょう。原則としてモデルさんには話しかけないこと。写真撮影は禁止です。携帯・スマートフォンはカバンの中に入れておきましょう。 室温はモデルさんを基準に設定します。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容	
5	5/16前提講義～クロッキー～デッサン制作	5/19 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・B3または木炭紙サイズのクロッキー帳</li> <li>・デッサン用具一式</li> <li>・木炭紙5枚以上(下敷き分も含む)</li> </ul> <p>※日本画コースは鉛筆デッサンでも可、その場合はTMKポスター紙を木炭紙大に切って使用 ※TMKポスター紙は事務室で購入できます</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル モデル台</li> <li>・画板 (鉛筆デッサン用・木炭紙大程度)</li> <li>・人体骨格見本・解剖図</li> <li>・木炭紙大のクロッキー帳 (デモンストレーション用)</li> </ul>
---	---

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	<b>【デッサン応用Ⅱ 3単位】 共通Ⅱ-5静物構成デッサン 【401教室】</b>	実習	清水健太郎 浅野純人

授業の到達目標 (目標とする検定)	「構図」の基本的な考え方を学ぶ。 モチーフをよく観察し、それぞれの「形態」「質感」「構造」の多様性を描き分ける 画面の中において床やテーブルの在り方、背景としての壁や空間の処理を考える
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:5/23~6/2 AM 8コマ</p> <p>共通授業の後半は「画面構成」がテーマです。 下記の2つの課題を行います。</p> <p>課題1 スケッチ テーブルに並んだ複数のモチーフを色々な方向からスケッチをする(必ず複数を選ぶ、全部でも可)</p> <p>課題2 構成デッサン テーブルに並んだ複数のモチーフを組み合わせて各自が静物風景を作りデッサンをして1枚の鉛筆画を完成させる</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
6	5/23前提講義 5/23~26 スケッチ
7	5/30~6/2 構成デッサン 6/2 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<b>授業持ち物</b> ・鉛筆デッサン用具一式 ・TMKポスター紙を木炭紙大に切ったものを画板にクリップで留める(スケッチ用) ・TMKポスター紙を木炭紙大パネルに水張りする(構成デッサン用) ※TMKポスター紙は事務室で購入できます ・水張りテープ(他の授業でも使用します) ※水張りは授業内で指導します	<b>学校で準備する教材など</b> ・モチーフ ・画板(人数分) ・木炭紙大パネル(人数分) ・水張り用の刷毛 ※パネルとテープはこの後の共通授業でも使用します
--	--

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【デッサン応用Ⅲ 2単位】 共通Ⅱ-7想定着彩 【404教室】	実習	清水健太郎 結城康太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	「観察・描写」を踏まえたうえで自身の発想や題材を拡げ、モチーフを客観的に捉える構成デッサンや色彩構成で学んだ成果を活かしてこれまでと異なる画面構成を探る
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:6/20~6/30 AM 8コマ</p> <p>用意された組モチーフを発想の基とし、異なる視点や空間・次元などの要素を組み合わせ、1枚の作品を制作します。</p> <p>前半は、今までの共通授業で学んだ「立体的なものの見方」「画面構成」「明暗」「色彩」などを意識して複数のスケッチやエスキースを制作します。</p> <p>後半では、モチーフから発想したイメージを具体的な形状や色彩に置き換えて、モチーフと共に画面に構成します。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
10	6/20前提講義 デッサン
11	着彩 6/30 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆デッサン用具一式</li> <li>・色の画材(色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです)</li> <li>・画用紙を木炭紙大パネルに水張りする</li> </ul> <p>※画用紙は事務室で購入できます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水張りテープ(他の授業でも使用します)</li> </ul> <p>※水張りは授業内で指導します</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフ複数</li> <li>・木炭紙大パネル(人数分)</li> <li>・水張り用の刷毛</li> </ul>
--	---

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【デッサン応用Ⅲ 2単位】 共通Ⅱ-8構成作品 【401教室】	実習	清水健太郎 菊地達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	4月から先週までの共通授業(人体デッサン・石膏デッサン・塑像・静物デッサン・色彩構成)の成果経験を活かし、発想力とデザイン、色彩構成と構図を考えた画面を構成し制作意図に沿った完成度のある作品を作る
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:7/4~7/14 AM 8コマ</p> <p>共通授業の最終課題は2週間の自由制作とします。 一年の学期最後に修了制作が組まれています。この課題では共通授業の修了制作と捉えてください。 いままでに制作した作品やスケッチブック、アーティストブックなどを参考にして自身の作家紹介という意味合いで画面構成を考えた方が良いです。 立体的なもの見方、人体の捉え方、画面構成、発想、明暗、色彩の表現など講評会や制作中の指導を思い出しながら制作しましょう</p> <p>10月の学園祭で展示する候補作品とします 授業時間の中で、作品に題名をつける事に関する実践講座を行う予定です(日時は別途お知らせします)</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
12	7/4前提講義 エスキース制作 中間チェック
13	本制作 7/14 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画材は自由 これまでの授業で自身に合った画材を選ぶ (色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです) コラージュも可</li> <li>・画用紙を木炭紙大パネルに水張りする ※画用紙は事務室で購入できます</li> <li>・水張りテープ(他の授業でも使用します)</li> </ul>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木炭紙大パネル(人数分)</li> <li>・水張り用の刷毛</li> </ul>
---	--

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形演習応用 4単位】 共通II-3塑像【401教室】	実習	工藤里紗

授業の到達目標 (目標とする検定)	対象物の「構造・質感・量感」など、立体としての物の捉え方を学ぶ。
----------------------	----------------------------------

授業の内容	<p>期間:5/9~5/12 AM 4コマ</p> <p>石膏像をモチーフにし、人物の頭部を構造体として捉えて粘土で首像を制作する。 顔の正面だけではなく奥行や側面、頭と首とのつながりなどを意識する事。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
4	5/9前提講義 5/12講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業着</li> <li>・不要な布(さらしのような生地が好ましいが、不要なTシャツやタオルなどでも可)</li> <li>※粘土が乾かないよう途中の作品に巻いておくため</li> <li>・クロッキー帳、描画道具</li> <li>・粘土べら(持っている方は持参してください)</li> </ul>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石膏像</li> <li>・心棒の道具</li> <li>・粘土</li> <li>・塑像板、</li> <li>・ゴミ袋(人数分)</li> <li>・粘土べら</li> <li>・麻ひも</li> </ul>
---	---

配付資料
------



渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形演習応用】 共通II-6色彩構成 【401教室】	実習	永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	色彩についての知識を活かし、それぞれの色が持つ特性を効果的に利用して制作意図に沿った色彩表現を実践する。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:6/6~6/16 AM 8コマ</p> <p>前半は、色の三属性(色相・明度・彩度)に関する講義と、小さな課題で色彩の知識を復習します。</p> <p>後半は、色彩とイメージをテーマに1枚の作品を制作します。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
8	色彩に関する講義と課題制作
9	色彩に関する講義と課題制作 6/16講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロッキー帳 鉛筆</li> <li>・色の画材(色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです)</li> <li>・画用紙を木炭紙大パネルに水張りする</li> <li>※画用紙は事務室で購入できます</li> <li>・水張りテープ(他の授業でも使用します)</li> <li>※水張りは授業内で指導します</li> </ul>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PCと画面</li> <li>・モチーフ</li> <li>・木炭紙大パネル(人数分)</li> <li>・水張り用の刷毛</li> </ul>
--	---

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現応用Ⅰ 5単位】 絵画Ⅱ-1 静物着彩(グリザイユ応用) 【404教室】	実習	中嶋明 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとして「明度」を優先した伝統的な制作技法を理解する。 不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:4/11~4/28 PM 計12コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとしての側面を理解していく。</li> <li>・不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。</li> <li>・木炭によるデッサンから始め、油絵具のシルバーホワイトとピーチブラックの白黒の2色のみで描いていく。</li> <li>・形体と空間、材質感など油絵で描くデッサンとしてひとまず完成させる。</li> <li>・モノトーンの絵画として描き終えた後、透明度の高い有彩色で色彩を整える。</li> </ul>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
1	4/11前提講義 制作
2	制作
3	制作 4/28講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
・F15号キャンパス ・クロッキー帳 ・木炭 ・油絵具 (アクリル絵具も可)	モチーフ

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現応用Ⅰ 5単位】 絵画Ⅱ-3写実から具象表現へ 【404教室】	実習	佐藤泰生 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	佐藤泰生先生による講義と実践的な指導によって 独自の視点でオリジナリティのある発想の作品制作を学ぶ。 (エスキースやドローイングに重点を置く)
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:6/13~7/14 PM 計23コマ</p> <p>人間と建物をモチーフに30号の油彩作品を制作します。現在を生きる私たちにとって“今”とは何かを考え、独自の発想でオリジナリティのある作品を制作してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目をスケッチ、写真資料の収集などに当てます。</li> <li>その材料によってエスキースづくりをしてください。この時点で材料が足りないと感じたらさらに取材を重ねます。(この期間に作品名を考えることで、作品の思考を深めるきっかけになります)</li> <li>・後半の1週間で本画を制作します。</li> </ul> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料集めはクロッキー帳一冊を描き切るくらいやるつもりで。</li> <li>・写真や雑誌なども含め材料集めは多角的に。</li> <li>・エスキースはできるだけ多様に作成する。</li> <li>・テーマに沿った画面構成を十分に検討する。</li> <li>・人物は普段の生活の中で気になったらクロッキーをする。</li> <li>・コスチュームモデルを一週使うので、それを活かすことも考える。</li> <li>・写真をそのまま写すのではなく、楽しく描く方法をそれぞれ考えてください。</li> </ul>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
9	6/13前提講義 ~6/16制作
10	制作
11	制作
12	制作
13	制作
夏期休業	
14	制作 9/14講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段使っているクロッキー帳や画材</li> <li>・エスキース作りに自分が必要だと思える資料、スケッチ、ノリなど</li> <li>・キャンバスサイズ 30号</li> </ul> <p>※モデルさんが入るときは、各自が希望するポーズをリクエストしてもらいますので、各々考えておいてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル</li> <li>・モチーフ</li> </ul>

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現応用 I 5単位】 絵画 II-4平面化とマチエール 【404教室】	実習	菊地達也 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画の具象抽象問わず普遍的な表現手法でもある「平面化」を実践し、 抽象の入り口に赴き、更にはその鑑賞能力を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:9/15~9/29AM/PM 計38コマ</p> <p>現代絵画の1様式としての「平面化」を試みます。</p> <p>「平面化」は、現代様式ではあるが実は決して新しくありません。ルネサンス以前の絵画は遠近法の未発達もあって、空間意識が異なり結果的に平面になっています。そのルネサンスによって確立された空間も1世紀も経つと遠近法に縛られない絵も出現し、数世紀後にはキュビズム台頭によってメインストリームから外れていきます。つまり絵画の歴史を辿ると、むしろ平面傾向の時代が長く、三次元的な空間を意識したのは数百年程度だったと考えられます。今では1部のジャンルにその影響を残しますが、現代の平面化はルネサンス以前と違い意識的に行っていて、遠近法を経験してきた分背景の奥行や形態の厚み等、自在にコントロール出来るように発達してきた感があります。</p> <p>内容 モチーフは静物だけでも、人物との組合も考えてみましょう。 エスキースを充実させ本画に入ります。</p> <p>※初日に小品制作を行いますのでF4号キャンバスなどの準備をすること。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
14	9/15前提講義 制作
15	9/19祝日 9/20~9/22制作
16	制作 9/29講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉛筆 ・クロッキー帳 ・木炭 ・油彩用具</li> <li>・F20号キャンバス</li> <li>・この授業を初めて受ける学生はF4号キャンバスも(初日の小作品制作で使用します)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフ</li> <li>・初日の小作品用モチーフ</li> </ul>

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現応用Ⅱ 4単位】 絵画Ⅱ-5具象表現から抽象表現へ 【404教室】	実習	加藤健二 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	内的イメージの発掘と拡張について学ぶ。
----------------------	---------------------

授業の内容	<p>期間:10/3~10/20 PM 計20コマ</p> <p>絵画の制作は A:外界からの刺激を基本として変容してゆく B:内的世界(経験・記憶)を中心として想像力(イメージ)の拡張が個人レベルで複合化し実行されてゆきます。</p> <p>今回は静物をモチーフ(外的要因)のドローイングを通し、内的なイメージに変換し、新鮮な感覚との出会いをめざします。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
17	10/3前提講義 ~10/6制作
18	10/10休日 10/11~10/13制作
19	制作 10/20講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクリル絵の具、水性系の絵の具可(※筆の多さは重要)</li> <li>・F15号大キャンバス(古キャンバス可)</li> <li>・油絵の具一式</li> </ul> ※クラフト紙4~5枚分の集金をします(100円~200円程度)	静物モチーフ ・F20号大のクラフト紙一人4~5枚分(ロールで購入)

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現応用Ⅱ 4単位】 絵画Ⅱ-6着彩(人体の構成) 【404教室】	実習	結城康太郎 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	デッサン～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキースは時間の限り多量に制作し、色彩計画まで模索する。 人物のデッサンからスタートし、最終的に絵画作品として自身が何を表現したいのかを考える。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:11/7～11/22 AM/PM 計20コマ</p> <p>人物(モデル)をメインのテーマとして、一つの作品に仕上げます。 その際に、必要であれば教室内に設置した複数のモチーフを組み合わせて、より具体的なイメージを探求しても良いです。 (もちろん、人物のフォルムのみで画面構成しても良い) 制作の一連の流れを通して修了制作へ向かう絵削りの基本を学びます。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
20	11/7前提講義 ～11/10制作
21	制作
22	制作 11/22講評 11/23・24休日

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

<p>授業持ち物</p> <p>クロッキー帳またはスケッチブック、筆記用具 油彩用具 25-30号キャンバス</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル 椅子 ソファなど</li> <li>・背景のきっかけとなるモチーフ</li> <li>・壁面装飾など</li> </ul>
--	--

配付資料
------

渋谷ファッション & アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現応用Ⅱ 4単位】 絵画Ⅱ-7 静物着彩(大型モチーフ) 【404教室】	実習	菊地達也 中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	デッサン～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキースは時間の限り多量に制作し、色彩計画まで模索する。 具体的なモチーフのデッサンからスタートし、最終的に絵画作品として自身が何を表現したいのかを考える。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:11/28～12/15 AM/PM 計24コマ</p> <p>教室内に設置した大型の静物モチーフを主題として一つの作品に仕上げます。 その際に、別途制作した人体デッサンを組み合わせて画面を構成しても良いです。 (もちろん、静物モチーフのみでもよい)</p> <p>設置されたそのままの状態を単に描写するのではなく、各モチーフを本来別々のものにとらえて、それぞれの位置関係や大きさも考慮したエスキースを作成することで、画面全体の構成やテーマの設定などがより個人的になる事をめざしましょう。</p> <p>前の課題と、本課題を制作する過程で修了制作への構想や技法・表現実験の足掛かりとします。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
23	11/28前提講義 ～12/1制作
24	制作
25	制作 12/15講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
クロッキー帳またはスケッチブック、筆記用具 油彩用具 25-30号キャンパス	・モチーフ

配付資料
------

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	<b>【造形表現演習応用 4単位】 絵画Ⅱ-2 静物着彩(細密画) 【404教室】</b>	実習	佐藤功 清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	静物画の細密描写を通して、描く対象への観察眼を深める。 描写技術を修得し、表現手段の一つとして活用できるようにする。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:5/9~6/9 PM 20コマ</p> <p>6号~10号の静物画を制作する(有機的、無機的モチーフを組み合わせる)。</p> <p>スケッチブックへのエスキース。 キャンバスへの鉛筆による下絵描写、アクリル絵具での下絵の描き起こし。 油彩制作。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
4	5/9前提講義 ~5/12制作
5	制作
6	制作
7	制作
8	制作 6/9講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デッサン用具一式、スケッチブック</li> <li>・油絵用具一式、キャンバス(細目6号~10号)</li> <li>・黒のアクリル絵具、細めの面相筆(水彩筆、デザイン筆など可)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モチーフ</li> </ul>

配付資料
------



渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2022年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	【造形表現修了制作】 絵画II-8修了制作 【404教室】	実習	清水健太郎 菊地達也 中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	1年間の学びの集大成として、外部に発表し鑑賞されることを目的とした作品を制作する。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:12/19~2/16 AM/PM 計54コマ</p> <p>修了制作について 本校は1年制の学校であるため、1年毎に修了となります。そのため1年間の学習の成果を問う形で、毎年修了作品を制作します。 現時点での各人の制作スキルを活かし、制作テーマを考え、集中的に作品を制作する機会が修了制作です。各人の制作の構想、エスキースを元に先生方と相談しながら進行していきます。</p> <p>テーマは自由です。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
26	12/19前提講義・導入 ~エスキース
冬期休業	
27	1/10計画書提出 制作
28	制作
29	制作 中間講評(日程は別途お知らせします)
30	制作
31	制作
32	制作 修了制作展で講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
別紙参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
デッサン用具一式、油彩道具一式 キャンバス(50号)	・修了制作計画表用紙 (作品名・展示計画含む)

配付資料
------